

彦根城世界遺産登録推進事業の進捗と今後の予定

彦根城世界遺産登録推進室

滋賀県と彦根市は、令和2年に彦根城世界遺産登録推進協議会を立ち上げ、令和4年の国内推薦の決定および令和6年の登録実現を目標に、彦根城の世界遺産登録推進事業に取り組んできた。

しかしながら、文化庁が今年度は「佐渡島(さど)の金山」を改めて推薦することを決定し、令和6年を目標としていた彦根城の世界遺産登録の実現は少なくとも1年先送りとなることが判明した。

こうした中、県と市は引き続き早期の登録実現に向けて取組を継続することを確認した。

1 今年度のこれまでの経緯

6月28日 推薦書素案を文化庁の指示により提出(今年度の国内推薦決定を目標)

※今年度の提出案件は、本県の「彦根城」と、奈良県の「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の計2件。

7月 3日 東京でシンポジウム『世界史における近世城郭の意義』を開催

7月28日 文化庁が今年度は「佐渡島(さど)の金山」を改めて推薦することを決定

8月 1日 文化庁から今年度は新たな推薦候補案件の選定は行わない旨の連絡(※1)

8月 3日 知事・彦根市長が報道発表

(早期の登録実現を目指して取組を継続することを表明)

※1 ユネスコに世界遺産登録の案件を推薦できるのは、1つの国から1年に1件のみと定められている。

2 今後の予定

・ 9月18日 出張！お城エキスポ in 滋賀・びわ湖(同実行委員会主催)でPR(甲賀市)彦根城世界遺産フェスタ(世界遺産でつながるまちづくりコンソーシアム等主催)と同日開催

・ 10～11月頃 シンポジウム『(仮)彦根城世界遺産と地域づくり』の開催
会場:県内(米原市を計画中)

3 最短での登録実現までの流れ(現時点での想定スケジュール)

令和5.3頃 推薦書素案(改訂版)の提出

令和5.7～8頃 令和5年度の国内推薦案件の決定

令和5.9頃 ユネスコへの推薦書(暫定版)の提出

令和6.2.1 ユネスコへの推薦書の提出期限(閣議決定の後、国が送付)

令和6.8～10頃 イコモスによる現地調査(1名が派遣)

令和7.5頃 イコモス勧告

令和7.6～8頃 ユネスコ世界遺産委員会で 登録の可否 決定

4 彦根城のOUV(令和4年6月28日現在)(※2)

彦根城は、日本列島の中央部に位置し、江戸時代(1603-1867)において、藩による統治拠点として機能した城郭である。本資産は、周辺から隔絶された一体的な空間構造と象徴的な形態を持ち、2世紀半にわたる安定した社会秩序を形成した徳川幕藩体制の仕組みを反映していた。彦根城は、幕藩体制を支えた城郭の中でも、幕府と藩、藩と領民の特異な均衡関係によって成り立つ体制の仕組みを完全な形で現在に伝える唯一の城郭であり、人類史上の1つの時代を画した統治体制の仕組みを示す物証として、顕著な普遍的価値を有している。

※2 OUVとは、通常、「顕著な普遍的価値」と訳され、「世界遺産として相応しい」と世界の人々が納得する価値のこと。世界遺産に登録されるためには、このOUVが存在することを証明するとともに、この価値を将来まで保存する体制を示す必要がある。